

報道関係者各位

2026 年 9 月 15 日

一般社団法人 J B C R G
(Japan Breast Cancer Research Group)

JBCRG と明治安田総合研究所が
YWBC 2026 で患者アドボカシーセッションを共同企画
**国内外の専門家と患者アドボケート※が、
がん医療におけるアクセス格差と患者支援のあり方を議論**

一般社団法人JBCRG(代表理事:佐治 重衡、所在地:東京都中央区、以下 JBCRG)と株式会社明治安田総合研究所(代表取締役社長:森本 律子、本社:東京都千代田区、以下、明治安田総合研究所)は、若年乳がんに関する国際会議 YWBC 2026 において、患者アドボカシー活動を担う患者アドボケートをテーマとした国際セッションを共同企画したことをお知らせします。

本セッションでは、日本、ポルトガル、米国、インド、オーストラリアから医療専門家および患者アドボケートが参加し、がん治療に伴う経済的負担(Financial Toxicity)、医療アクセスの格差、地域社会における患者支援活動、若年女性の乳がんリスク認識などについて、多様な視点から議論します。

※患者アドボケート(Patient Advocate)とは、患者さんが適切な医療を受けられるように支援し、その権利や意思を医療者や医療機関に伝える役割を担う人や活動のことです。

■ 本セッションの背景

近年、がん医療は大きく進歩している一方で、患者さんが直面する課題は治療そのものだけではありません。

治療費や就労への影響などの経済的負担、地域や社会環境による医療アクセス格差、適切な情報へのアクセス不足に加え、若年乳がん患者においては、妊孕性温存や妊娠・出産、子育てとの両立といったライフステージに関わる課題も重要なテーマとなっています。

こうした課題への対応には、医療従事者や研究者だけでなく、患者当事者、患者支援団体、企業、研究機関など、多様なステークホルダーによる連携が求められています。

JBCRG と明治安田総合研究所は、患者さんの声を医療や研究、社会に反映することの重要性に着目し、本セッションを共同で企画しました。

■ 本セッションの意義

本セッションの特徴は、患者さんを医療の受け手としてではなく、医療の未来を共に創るパートナーとして位置付けている点にあります。

世界各国で活動する医療専門家と患者アドボケートが一堂に会し、

- ◇ 若年乳がんにおける最新治療
- ◇ 妊孕性温存と妊娠期乳がん
- ◇ 遺伝性乳がんとゲノム医療
- ◇ がん治療に伴う経済的負担とサバイバーシップ
- ◇ 患者市民参画(Patient Public Involvement)

などの課題について議論を行います。

また、臨床研究を推進する JBCRG と、医療・健康や社会課題等に関する研究を行う明治安田総合研究所が連携することで、医療の質の向上だけでなく、患者さんが安心して生活できる社会環境の整備についても考察する機会となります。

■ セッション名:Patient Advocacy

日時:2026 年 11 月 15 日(日) 14:30~16:00

【Chairs】

Luis Costa, MD, PhD

Hospital de Santa Maria, The Lisbon Academic Medical Centre(Portugal)

Naomi Sakurai

Cancer Survivors Recruiting Project(Japan)

【Speakers】

Financial Toxicity of Cancer Treatment

がん治療に伴う経済的負担が患者さんと家族に及ぼす影響について、日本の現状と今後の課題を共有します。

Kazunori Honda, MD, PhD

Aichi Cancer Center(Japan)

Rethinking Community Advocacy Across Cultures

文化や地域によって異なる患者支援のあり方を比較し、コミュニティが果たす役割について議論します。

Hideko Yamauchi, MD, FACS

University of Hawai'i Cancer Center(USA)

Access to High-Quality Medical Oncology Care: Can We Have It All?

誰もが質の高いがん医療へアクセスできる社会を目指し、各国における医療格差やその解決策を探ります。

Ashok Kumar Vaid, MD, DM

Medanta Cancer Institute(India)

Strategies to Eliminate Gaps in Access to Care: Addressing Misperceptions of Breast Cancer Risk in Young Women

若年女性の乳がんリスクに関する誤解や認識不足に着目し、適切な情報提供と受診行動促進の方策を紹介します。

Ms. Rachelle Panitz

SoBrave(Australia)

※本セッションの登壇者、日時および内容は現時点での予定です。自然災害その他やむを得ない事情により、変更となる場合があります。最新情報は公式ウェブサイトをご確認ください。

▼学会参加はこちら

<https://procomu.jp/ywbch2026/registration.html>

■ 桜井なおみ氏コメント(乳がんサバイバー、一般社団法人 CSR プロジェクト 代表理事)

「患者は、治療のために生活するのではなく、生活のために治療を選択しています。仕事、子育て、介護など、多様な役割を担う若年世代にとって、治療の選択肢が増えることは歓迎すべきことです。一方で、患者一人ひとりの生活や選好に合った治療でなければ、実際の医療現場に根付いていくことは難しいでしょう。

世界のアドボケートと専門家が集い、患者の体験や声をどのように研究開発に取り入れてきたのか、そのプロセスを知ることは大変貴重です。この機会が、日本における患者参画のさらなる発展につながることを期待しています。」

■ 明治安田総合研究所オンコロジーソーシャルワーカー(本企画担当) 樋口由起子氏コメント

「患者さんが長く安心して暮らせる社会の実現には、医療の質の向上だけでなく、就労、経済的支援、地域コミュニティとのつながりなど、生活全体を支える視点が欠かせません。当研究所は、患者さんご家族、医療者の声を社会課題として捉え、調査研究や情報発信を通じて、その解決に貢献していきたいと考えています。今回の国際的な議論が、日本における患者市民参画のさらなる発展につながることを期待しています。」

■ 今後の展望

今後、JBCRGと明治安田総合研究所は、本セッションで得られた知見やネットワークを活かし、国内外における患者アドボカシーの実践事例や課題を継続的に共有してまいります。日本では、患者市民参画を基盤とした医療の実現に向けた取り組みが進みつつある一方で、その重要性や実践はまだ十分に浸透しているとは言えません。本会議を契機として、患者さん、医療従事者、研究者、企業など多様な関係者による対話と連携を促進し、患者さんの声が医療や研究により一層反映される環境づくりに取り組んでまいります。

■ JBCRGについて

一般社団法人JBCRG(Japan Breast Cancer Research Group)は、乳がんに関する臨床研究の推進を通じて、患者さんの予後および生活の質(QOL)の向上を目指す研究グループです。とりわけ若年乳がん領域においては、治療とライフイベントの両立を支える新たなエビデンスの創出に取り組み、患者一人ひとりの治療選択肢の拡充に貢献しています。

これらの取り組みの一環として、JBCRGは2026年11月14日・15日に東京にて、若年乳がんをテーマとした国際会議「The 3rd International Conference on Young Women's Breast Cancer and Health(YWBCH 2026)」を主催いたします。

▼詳細はこちら

<https://jbcrg.jp>

■ 明治安田総合研究所について

明治安田総合研究所は、明治安田生命保険相互会社のシンクタンクとして、ヘルスケア領域、先端テクノロジー・ビッグデータ等のデジタル領域、経済領域、生活設計、社会保障等の各分野における基礎調査を行なっています。さまざまな領域の専門家と協働し、お客さま視点に立った創造的かつクオリティの高い調査研究成果を発信することで、お客さまの価値創造に貢献しています。近年は医療・ヘルスケア分野において、患者さんや家族を取り巻く課題にも関心を深め、就労支援、経済的負担、患者市民参画(PPI)などを含む多面的な視点から研究活動を推進

しています。本取り組みを通じて、誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献してまいります。

▼詳細はこちら

<https://www.myri.co.jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ

一般社団法人 JBCRG

Email: ywbch2026@jbcrj.jp

TEL: 03-6264-8873